

令和 7 年度 学校経営環境分析書

仁方中学校区 校番 1 学校名 呉市立仁方中学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	O (支援的要因) 【地域】 ①特色ある産業があり、それを活用しての学習が行いやすい。 ②地域の様々な組織が確立されており、中学生が参加できる地域行事が多くある。 ③地域の方々が、様々な教育活動に対して非常に協力的である。 【保護者】 ④学力や学校行事、部活動などに関心が高く、協力的である。 ⑤PTA役員が協力的であり、PTA活動に非常に熱心である。 【その他】 ⑥小中学校間との連携が行いやすく、取組にも系統性をもたせやすい。	S (強み) 【学校】 ①学校全体が、協働的に物事に取り組む風土がある。 ②小規模校のため、各学年での行事等に取り組みやすく、各学年の特色が発揮しやすい。 ③N中メソッド(時場礼)についての行動統一及び指導の徹底が図られている。(教員アンケート「行動統一」肯定的評価94.5%) 【生徒】 ④他人に対して優しく素直な生徒が多い。 ⑤N中メソッド(時場礼)を守り、学ぶ風土をつくっている。(生徒アンケート「N中メソッドを守っている」肯定的評価92.5%) ⑥学級集団における適応力が高い。(生徒アンケート「学級集団適応力」肯定的評価94.1%) ⑦各教科等において自己表現する活動が充実している。 ⑧防災に関する意識が高い。(生徒アンケート「避難する場所や方法を理解している」肯定的評価96%)	内部環境	支援的要因と強みを生かした活動・取組は ○小中一貫教育の充実 ・教科指導及び生徒指導における取組の連携 ・魅力ある教育内容の創造 ・「未来の学び」実践事業の活用 【O①②③④⑤⑥ S①②⑧】 ○自己表現の充実 ・様々な場面において自己表現する機会の充実 【S⑦】 ○自己指導能力の育成 ・N中メソッドを軸にした学びの風土づくり 【S③④⑤】 ○集団適応力の更なる向上 ・自律的縦割り集団活動や生徒会活動等の充実 【S⑥】
	T (阻害的要因) 【生徒】 ①SNS等を介してのトラブルが増加し、学校生活に悪影響を与えることがある。 【保護者】 ②子育てや家庭教育に悩んでいる保護者が増えている。 ③家庭教育や学校教育に対する意識や理解に差がある。 【地域】 ④他地域からの影響を受けにくいいため、風土や慣習、価値観を維持しやすい。	W (弱み) 【生徒】 ①人間関係が固定され、現状を維持しようとする傾向がある。 ②コロナ禍以降、不登校傾向にある生徒数が増加している。(不登校率12.0%) ③基本的な生活習慣や家庭学習の習慣に課題のある生徒がいる。(保護者アンケート「基本的な生活リズム」肯定的評価69.8%) (保護者アンケート「家庭で毎日学習」肯定的評価69.8%) ④学力・体力ともに、二極化の傾向が見られる。 【学校】 ⑤「考える授業」に向けた授業改善による学力向上が、結果に表れていない。(国語科目-4PT、数-3PT)		○不登校支援 ・様々な場面での居場所づくり ・NSR(カサポトルーム)の組織的な運営による居場所づくり 【T① W①②】 ○基礎学力の定着・向上 ・「考える授業づくり」に向けた更なる授業改善 ・週末課題の充実やタブレット端末の活用による学力向上 【W③④⑤】 ○保護者・地域との連携・啓発 ・生徒指導規程の活用 ・広報活動の充実 【T②③④】 弱みを克服し、阻害的要因を回避する解決策は

2 重点課題

- ①生徒指導実践上の4つの視点を基盤とした生徒が主体的に学ぶ「考える授業づくり」の推進。
- ②NSR(仁方中サポートルーム)の組織的な運営を核にした不登校支援の充実。
- ③週末課題・読書活動・Qubena・補充学習等を核とした学力向上の取組。
- ④自律的縦割り集団活動・生徒会活動・ボランティア活動・主体的に学ぶ防災学習等の更なる充実。
- ⑤行事の見直しや業務の平準化による組織的な業務改善の推進。